黙想: 待降節第1火曜 日

黙想のテーマ:「ご自身を現される神」「神の教えを理解するための幼子のような単純さ」「日々の生活を照らすイエスとの付き合い」

-ご自身を現される神

-神の教えを理解するための幼子のような単純さ

-日々の生活を照らすイエスとの付き 合い 聖ホセマリアの教えと模範に導かれて、私たちは世界を情熱的に愛す被した。私たちは、を学びました。私たち現実をであるなりでで、それらが神からです。それらが神からです。それらがもないるからではあることを知ってもを損ない、世界の美しから遠ざけてもに満ちたで計画から遠ざけでもある。

 べての善の源である神に近づくことを望みます。「わたしの聖なる山においては何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。大地は主を知る知識で満たされる」(イザヤ11・9)。

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」(ヘブライ1・1-2)。神は私たちが神を知ることを強く望んでおられます。それゆえ自らこの世に来て、ご自身をお示しになりました。

それゆえ、私たちは感謝に満たされ、今日のミサの福音にあるイエスの賛美の祈りに心を合わせることができます:「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。」(ルカ 10・21)

「主は力強く来られ、しもべの目を 開かれる」[2]。この約束はイエスが この世に来られることによって実現 しました。「エッサイの株からひと つの芽が萌えいで、その根からひと つの若枝が育ち、その上に主の霊が とどまる。知恵と識別の霊、思慮と 勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊| (イザヤ11・1-2)。主は今も、私た ち一人ひとりと個人的に対話し、私 たちを教え、導き、励ましてくださ います。神はしばしば人や状況を通 して私たちに語りかけ、私たちの生 活全体を神との出会いの場としてく ださいます。もし観想生活を送ろう と努めるなら、私たちは日常生活の あらゆる出来事の中に、私たちを探 しておられる神の声を発見すること ができるでしょう。

この日常生活における神との対話に おいて、主は私たちが信頼を持って

主に近づくことをお望みです。その ことを通して、主は私たちが理解で きない事柄を、主の光で照らしてく ださいます。それゆえ、私たちは幼 子の単純さをもって神の御前に身を 置き、自分の心にある疑問を神の心 に向かわせるのです。反対に、肉に おいて賢い者にとっては、主の言葉 は意味をなさないように思えるかも しれません。ですから、たとえ部分 的にしか主の言葉を理解できないこ とがあっても、心を神に開き続ける ことが大切です。 | 神は決して私た ちをお見捨てになりませんから、神 のすぐ傍にいるなら、幾多の困難も 消え去ることでしょう。ご自分の弟 子、病人、足の悪い人に向けられた 愛が、 異なった仕方で再び示されま す。イエスはお尋ねになります、 |どうしたのか」と。「実は…| と 答えは じめるやいなや、光が与えら るか、あるいは少なくとも、現状を 受け入れることができ、 平和を取り 戻すのですしょ。

私たちが子どものように大胆に主に 近づくなら、主はご自分の知恵を私 たちに現し、ご自分の計画を私たち に知らせてくださいます。主はま た、私たちを平安と喜びで満たし、 人生の困難に対処する力を与えてく ださいます。

イエス・キリストにおいて、下されています。「すせられたいます。「はます。」に任だが、はなるとは、全球をあるがあると思います。であるがあると思います。であるがあると思います。であるとは、にいれてははない。でありません。でもいってがいるがでありません。でありませんがあるがするがありませんがありませんがあるがありませんがあるがありませんがあるがありませんがあるがあります。だから神のみ顔を示しているがあります。だから神のみ顔を示しています。

ださるからです」「国。神がキリストにおいて肉となられたのは、私たちが神を見、神と直接の関係を結び、神の知恵の計画を知ることがであるためでした。人生の疑問に対する答えを求めるとき、ので会になって、会に立ち返ればいて、会はイエストとの対話において、会はいの中をした。すべての知恵は、合まれています。

使徒たちは、自分たちが理解できなスをできる。 できて、記さい意味をインのでは、記されたり、起きた出来事の説同じるといい。 私たちもりしました。私たちも始めたりは、主とのはまるがで的なるとがでいる。 ではいるがはない。 ではいるがは、といるできますな状況に対し、イエスをはいるとができますな状況に対し、イエスをはいるとができないます。 なります。私たちとイエスの対話 が、私たちと他の人々にとって光になるように、聖霊にお願いすることは有益です。

- [1] 聖ホセマリア、書簡(1940年3月 11日)、11番
- [2] 待降節第一火曜日、アレルヤ唱
- [3] 聖ホセマリア『神の朋友』249番
- [4] ベネディクト十六世、一般謁見 演説(2013年1月16日)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikousetsu-daiichi-kayou/(2025/12/17)